

## 会議結果（要旨）

会議名	平成30年度 第6回 余市町地域公共交通活性化協議会
開催日時	平成31年1月15日（火）午後1時30分～午後2時30分
開催場所	余市町役場 301・302号会議室
出席者	委員：出席21名、代理出席1名、欠席5名 他：オブザーバー2名
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 挨拶</li> <li>3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 網形成計画策定に関する事業評価について</li> <li>2) 網形成計画の素案について</li> </ol> </li> <li>4. その他</li> <li>5. 閉 会</li> </ol>
会議資料	別紙のとおり
会議結果	下記のとおり
出された意見等	<p>■協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 網形成計画策定に関する事業評価について ※意見等特になし</li> <li>2) 網形成計画の素案について ※以下の意見あり</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者及び障がい者等に配慮した福祉公共交通の充実については大きく期待をしたい。障がい者にとっては行動一つとっても非常に時間がかかり、バス停留所はかなり早く行って、長く待たなければならない状況がある。余市町は歩道が狭く条件が悪いが、本格的な大きな施設でなくても良いので、バス停留所の改良を検討いただきたい。</li> <li>・これからの近未来は、バスがいまどこを走って、いつ来るのか、そしてどんな運行をしているのかが一目で分かるというのが理想と思う。</li> <li>・実施主体に交通利用者、行政はあるが、利用している高校生や関係者の意見を聞いてほしい。バス会社も収益が上がり、住民も便利になったと思わなければ意味がない。</li> <li>・余市紅志高校に向かうバスが出ているが、このバスには通学にかなり距離がある大川小学校の生徒も乗車券や定期券を買って乗車するという現状がある。東大浜から路線が振り替わることによって、特に小学1年生の子どもには大変厳しい状況が生まれることもあり得るので配慮いただきたい。現在旧栄小学校区の子どもたちが教育委員会の運行しているスクールバスで大川小学校に登下校しているが、スクールと重複する部分について、効率的に運行していくと無駄なお金を使わなくても済むのではないか。スクールバスを利用する小中学生の保護者向けの説明などがあると良い。</li> <li>・住民が実施主体ということだが、交通政策基本法では事業の主体は地方自治体</li> </ul>

と謳われているかと思う。それに対して交通事業者は、地方公共団体が実施する交通に関する施策に協力するように努めると明文化されている。本来実施主体は全て地方自治体で、その施策に対して協力していく者が交通事業者、住民、関連事業者という形で、協議会が開かれているように認識している。書き方が独り歩きをしてしまうと、協議会の趣旨とは外れて行くので検討いただきたい。

※北海道運輸局主席運輸企画専門官より以下主旨の助言あり。

- ・素案が示されたということで、議論が具体的なもの、抽象的なもの、いろいろ混ざっているが、あくまでも交通におけるマスタープランとしての基本的な計画であるという位置づけを再認識していただきたい。今後検討する上で、どこまでをどの程度盛り込むのかは、実際の個別の具体の施策は計画ができた後にまた協議会の中で議論して進めて行くということを踏まえて、検討いただければ良いと思う。この計画段階で細かいことまで書いてしまうと、そこに縛られて身動きが取れなくなってしまう。検討の過程の中でより良い案や施策が出てくる可能性もあり、その中では必要な範囲の方々の意見を改めて聞くという作業も入ってくるので、そこを分けて整理していただければ、この計画の趣旨がより理解できるのではないかと思う。今後意見集約を行っていく中でも、これらのことを踏まえて、計画がより充実したものになるように進めていただければと思う。

■その他

- ・事務局より次回の開催について

※意見等特になし

以上により閉会